

がんばろう 南三陸町

復興第 11 号

南三陸マイタウン月刊情報

発行所

マイタウン企画

本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069

後援:

志津川広報センター

南三陸町の皆さん
元気になってと願いを込め

南方仮設での交流盆踊り

8月20日に登米市で「南方仮設盆踊り大会」が行われ、登米市の皆さんの協力支援により、元気と希望を頂いた。南三陸町からは「トコヤッサイ」で感謝の気持ちを伝え、登米市の皆さんからは、豊里地区の「よさこい」が披露され、市の各地区の「よさこい」のチームが元気に踊り、大人と子供で力強く舞ってくれた。また、テントには焼き鳥・枝豆・ホットドックなどが、前売りチケットの販売により、長蛇の列で買い求められていた。その他にサービスでトウモロコシやゆで卵が配られていた。

南三陸町民の方たちはしばらくぶりの再会に、立ち止まり近況と当時を振り返っていた。「移転はどうなるの」「義援金は」「今後の生活への不安を話していた。会場

各地区の「よさこい」の旗が
夜空に舞う

には布施市長が職員と支援で参加していた。多くの南方仮設の方々の登米市への転居の増加もあり、被災地救済に尽力支援に努めている。終盤に南三陸町佐藤仁町長が出張の帰りに寄り挨拶をした。

子供たちは水風船のプールに集まり、楽しい笑顔で納涼の水遊びに一生懸命だった。こうした光景がまた南三陸町に見られるように、町民一丸となり頑張っていきたい。

南方仮設には現在、第1、第2仮設に800名が暮らしている。登米市民の方々も参加され、南三陸町の被災した皆さんとの交流を深める姿が見られた。

県内一番目の防潮堤建設
戸倉海岸着工式

潮干狩りの思い出の海岸の現状

去る8月31日、戸倉海岸災害復旧工事「着工式」があった。工事の始まりの祝辞に、海岸での潮干狩りの話が出てきた。ここはあさり放流場所であり、漁民は無料で獲れるが、一般の人は子供500円・大人1000円で楽しむことができた。しかし、こんな被災前の「潮干狩り」ができるのか、この海岸の状況やスーパー堤防のような防潮堤の設置で、親子が再び海で楽しい遊びができるのか、何年かかるか将来は見えてこない。

防波堤・バック堤の「8.7m」は新たな都市計画の防災対策として、決定済の案件ながら、志津川・歌津の風景や風土を守るためには、今回の計画には改善するべきことがあると、まだまだ若者・漁民の中で議論が必要との声を聴く。

この着工式は、宮城県内の被災地の防潮堤として、最初の復旧工事が戸倉海岸であり宮城県土木

部河川課により開催された。電線の後ろの鉄塔が8.7mの位置となる。写真のなにもなくなった戸倉小学校など戸倉海岸の風景は、津波の脅威を物語っている。



南三陸町復興の誓い新たに

27 店主の想いを絵や言葉を
「きりこ」に込めて

2年ぶりに八幡川かがり火祭りが8月25日、26日開催された。想い照らす南三陸の灯『「第17回福興市」かがり火祭り』と題され、南三陸さんさん商店街特設会場で25日(土)は「白い紙で彩る朗読会」「鎮魂&希望の花火」、26日(日)には「歌謡ショー」や「ミニライブ」が開催された。

被災前は八幡川の両脇に「かがり火」が炊かれ、ふんどし姿の若者が松明に火を灯し川の中を歩く、その光景が今でも心に残っている。

八幡川には多くの町民が集まり、川沿いに灯されたローソクの明かりが川面を写し出す。山から川を通り海へと水が流れる。山・川・海への感謝の祭りとはあの頃を思い出す。

また、五日町商店街・おさかな通り(十日町)・志津川駅前商店街(一部)には、白い紙で彩るみんなの記憶と題され「南三陸福幸きりこ祭り」が8月25日から9月11日まで開催された。

菓房山清「お菓子でみんなをしあわせに」、ササキ写真店「心機一転再スタート」とし、コンケイさん・商工会は「ここに生きてきた幸せここで生きていく喜び」ときりこに願いの思いを表していた。

9月11日の大震災から1年半を向えるこの日、五日町南三陸商工会敷地内において、「南三陸の海に思いを届けよう」と音楽を奏でる会を行なった。

敬老の日の連休にも志津川市街地のガレキの商店街には、「きりこ」と商店主のメッセージが展示されている。なにもなくなり、場所もわからなくなった被災地に、志津川での営みの「生きてきた証」が示されている。

大潮・冠水域にも
メッセージが立っている

震災を吹き飛ばせ志高生

志津川高校復興祭

志津川高校の「旭ヶ浦祭2012」が9月1日「志津川高校復興祭」として、同窓会と共に2年ぶりに開催された。多くの車が仮設建設されている校庭のグラウンド以外のスペースを埋め尽くしていた。被災地の町民の多くが志津川高校を応援している姿がここにあった。

体育館では音楽コンサートが開催され、高校生のパフォーマンスが熱気を帯びていた。会場の体育館には写真の「書道の応援」のエールが張り出され、三島高校書道部の「とどけ未来への光」と輝く色で力強く書かれてあった。女性のロックバンドはクラスの仲間との演奏で、2012年の旭ヶ浦祭の思い出として被災の時代を共に生きて来た事を、志高生はきっと忘れる事はないだろう。

また、志高第2体育館2階では同窓会総会が午

前11時より開催された。開会に先だち沼倉会長の挨拶では「力強く歩んでいる後輩を応援したく、2年ぶりの開催をチャリティー同窓会とした」と、今後も志津川高校の生徒を同窓会は支援していくことを誓った。学校長挨拶では、日下校長が「地域の学校として地域のニーズに添えていきたい」と南三陸町内の高校としての役割を話してくれた。

また、来賓として参加された仙台支部の佐々木支部長さんは、「母校への支援を今後も続けていく。3.11を忘れないよう会員に311円の募金活動を継続している」など、仙台から多くの支援を現在行っていることを発表してくださった。閉会の挨拶で遠藤副会長は、被災直後の志高生の被災者救助活動と、志高生として復旧復興への取り組みを伝えた。登米市への二つの学校に分かれての学校生活など、苦境の中を乗り越え、町への協力活動を讃え同窓会を終えた。



志高同窓会総会

今後も志高の応援団

グループ化補助金、小売りなど大半見送り

被災した中小企業を支援する国のグループ化補助金について、県は6月7日、第5次募集分の認定グループを内示した。

南三陸町では、南三陸商業グループ(21社・10億2600万円)、南三陸流通グループ(15社・10億8600万円)がそれぞれ認定された。

気仙沼商工会議所関係では、申請額220億円のうち、観光や建設業関係の計112社・55億円分が採択されたが、小売業など約7割に上る347社(164億円)分は、県全体の申請額が予算枠を上回る状況となったため見送られた。

気仙沼商議所が申請した小売店など中小事業所の大半が見送られたことで、今後、市や経済団体などからは制度継続による予算確保を求める声が一層強まりそうだ。

一緒に南三陸町で暮らしましょう

配達専門店です

お気軽にお電話下さい

お茶、1本から配達します

まなぶ茶園

南三陸町志津川字深田259-5
TEL/FAX (0226) 46-4589

あなたの足を守ります

南三陸町志津川で「靴のオーダー」の店として皆様に親しまれていた「大澤靴店」。被災後も工場を他町に移し営業しています。

体の健康は足からと、足の形に合った歩きやすい靴を提供し届けたいと、今も頑張っています。

また、踊りの活動も多くのお弟子と共に被災された皆さんに、笑顔と楽しさを届けている。

大澤製靴店 大澤 博
携帯 090-3649-0557